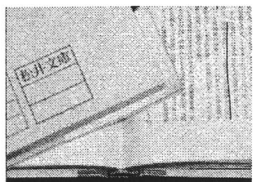


松井やより没後10年特別展ガイド

展示スペースは①～⑤の5カ所に分かれています。それぞれのコーナーの展示パネルの内容を紹介します。また、館内にちりばめられた松井やよりさんにゆかりのある品々も、ぜひ忘れずにチェックしてください。

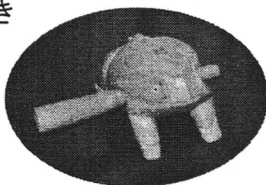
◆ここに注目1◆

wamが所蔵する書籍の多くは、松井さんから寄贈されたものです。それらには「松井文庫」の印が押されています。ぜひ、「松井文庫」の書籍のページを開いてみてください。傍線や走り書きが残されたものも見つかります。



◆ここに注目2◆

本棚に並ぶカエルグッズの数々は、松井さんが各地で集めてきたものです。松井さんはカエルに、変革の「変える」の意味を含め、シンボルにしていました。



② 新聞記者・松井やよりの代表記事

1961年4月、朝日新聞に入社した松井さんは、入社早々「女に記者がつとまるのかね」という男性記者の冷やかな視線に迎えられ、「いつか目に物見せてやるぞ」と心に誓いました。ここでは、そんな彼女が書いた記事を紹介するパネルを展示しています。

③ アジアの民衆・女性たちとの連帯

買春観光反対キャンペーン、韓国の民主化運動を伝える記事…松井さんはそれらを支援する世論を盛り上げるために、記事を書き続けました。さまざまな制約のある大手メディアでは書けない記事はミニコミ誌に書くなど、「思いつくことは何でもやった」という松井さんの姿を紹介しています。

① 松井やよりの生い立ち

松井さんは1934年4月12日、京都で平山照次さん・秋子さんの長女として生まれました。このコーナーには、小学生だった松井さんの戦争体験について彼女が描いた絵とともに紹介するパネルと、父・照次さん、母・秋子さんを紹介するパネルの3枚を展示しています。

④ シンガポール特派員時代

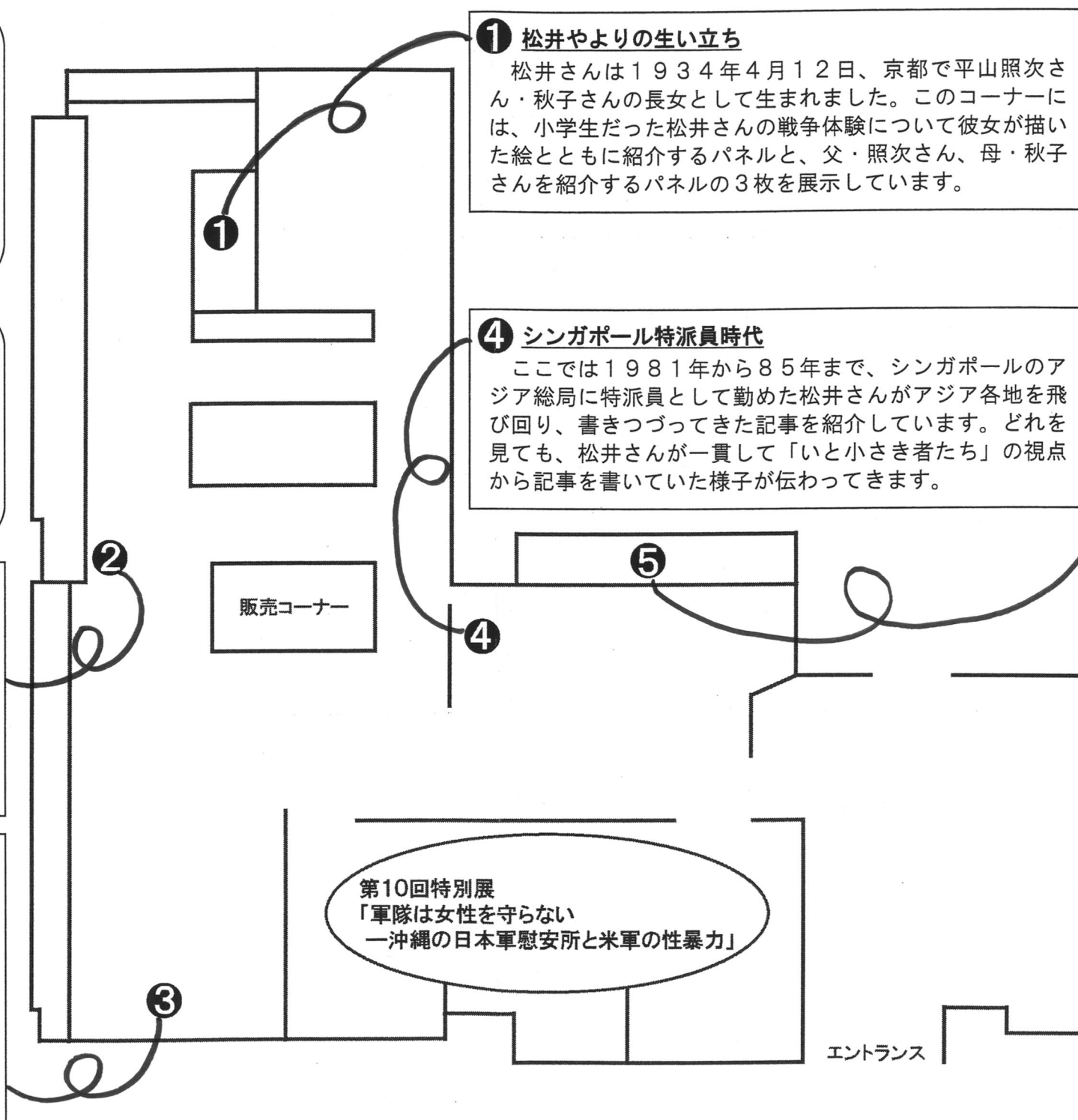
ここでは1981年から85年まで、シンガポールのアジア総局に特派員として勤めた松井さんがアジア各地を飛び回り、書きつづってきた記事を紹介しています。どれを見ても、松井さんが一貫して「いと小さき者たち」の視点から記事を書いていた様子が伝わってきます。

⑤ 女性国際戦犯法廷へ向けて

女性国際戦犯法廷の常設コーナーにも松井さんと「法廷」の関わりを伝えるパネルとして、アジア各地で日本軍の戦争犯罪を取材した松井さんを紹介するパネルを展示しました。また、少し時代はさかのぼり、松井さんが女性の視点で記事を書き始めるきっかけを紹介したパネルも、このコーナーに展示しています。

◆ここに注目4◆

今回は、残念ながら女性活動家としての松井さんを紹介する展示ができませんでした。松井さんの多岐に渡る活躍を知りたい方は、ぜひ、第2回特別展カタログ『松井やより全仕事』をお求めください。1000円で販売中です。(2013年12月末までの特別価格)



◆ここに注目3◆

①の展示スペースは、普段から「松井やよりコーナー」と呼ばれています。ここにある机とイスは松井さんが生前使っていたもの。そして、机に並ぶファイルには、松井さんが記者時代に書いた記事がスクラップされています。また、机の横のスライド書架には松井さんの著作や雑誌論文がずらりと並んでいます。ぜひ、手にとってご覧ください。

エントランス